

2025. 4 vol. 124

改訂版 vol. 54

女性委員会だより

らくだ



公益社団法人 岐阜県建築士会

〒500-8384 岐阜市藪田南5丁目14番12号

岐阜県シンクタンク庁舎4階

〈電話〉(058) 215-9361 〈FAX〉(058) 215-9367



はじめに

◆一年を振り返って

女性委員長 岡田 利里

今年度も引き続き女性委員長を務めさせていただき
ます岡田です。

1年間委員長をしてみると、連合会からのアンケート
の回答やら、予算書の作成、総務委員会や運営委員会
への出席、ブロック会議のための活動報告などなど、思
ったよりも沢山の仕事がありました。これまで委員長を
務めてこられた方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。

2月の『令和6年度ブロック美濃・関大会』は、14年
ぶりに青年委員会との共催で行いました。135名の参加
者があり、岐阜県からは13名の女性委員がスタッフと
して活躍してくださり、女性委員会の団結力を感じられ
た経験となりました。

仕事に家庭にとお忙しい中、女性委員会の活動にご
協力いただき、本当にありがとうございます。

男女共同参画といえども、家事の時間は圧倒的に女
性の方が多いようです。それがいけない事とは思いま
せん。お互いが尊重しあい、年齢、性別にかかわらず違
いを認め合い支えあうというインクルーシブな社会にな
っていけばよいと思っています。家事の比重が得意な方
に偏るのは仕方のない事かもしれません。

ただ、やはり大変な忙しさがあったであろう中で、建
築の仕事が続けてこられた先輩方のお話を伺いたい
気持ちができました。

今年度の活動の一つとして、岐阜県の女性委員会を

立ち上げられた当初の、先輩方と交流する機会を作れ
たらと思っています。

2028年度で40周年を迎えることもあり、女性委員会
のありかたなど、改めて考える機会に出来ればと思いま
す。

1年間、どうぞよろしくお願いいたします。



今回の記事

◇ はじめに

◇ 今回の記事

◇ 今後の予定・お知らせ

◇ 第66回建築士会全国大会「鹿児島大会」

日 時: 令和6年10月25日(金)

会 場: メイン会場: 宝山ホール

(鹿児島市山下町 5-3)

サブ会場: 鹿児島市中央公民館

(鹿児島市山下町 5-9)

セッション会場: カクイクス交流センター

(かごしま県民交流センター)

(鹿児島市山下町 14-50)

大交流会: かんまちあ

(鹿児島市浜町 2-20)

テーマ: もえよ! 建築維新

～たぎる地で築くみらい～

参加者: 岐阜県女性委員会から4名

◇ 第8回たくみ女子会

日 時: 令和6年12月21日(土) 14:00～16:30

場 所: ハートフルスクエアG 大研修室

(岐阜市橋本町1丁目10番地23)

参加者: 女子学生等 17名(申込21名)

女性アドバイザー14名(内女性委員会6名)

岐阜県畳組合 8名

たくみアカデミー関係者 3名

岐阜県建築士会関係者 1名

岐阜県 ぎふ担い手育成支援センター1名
学校の引率先生 3名
TV 関係者 数名

- ◇ 建築士会 東海北陸ブロック会女性建築士協議会
令和6年度ブロック美濃・関大会
* 青年建築士協議会と共催
日 時:令和7年2月15日(土)～16日(日)
参加者:青年委員会 91名
女性委員会 34名
(内岐阜県女性委員会13名)
来賓者等 10名

- ◇ 今第23回 気楽にらくだ会 & 第6回女性委員会
日 時:令和7年3月8日(土)10:50～12:40
見学場所:coyane こやあね
(岐阜県美濃加茂市太田町 2689-30)
美濃加茂市で初のコワーキングスペース
参加者:6名(内女性委員:6名)
講 師:ライフオーガナイザーひと宮
代表 服部ひとみ 氏

- ◇ 編集後記

今後の予定・お知らせ

- ◆ 建築士会東海北陸ブロック会女性建築士協議会
令和7年度 前期定例会議
日時:令和7年6月21日(土)
- ◆ 令和7年度 全国女性建築士連絡協議会
やまがた大会

日時:令和7年7月19日(土)～20日(日)



第66回

建築士会全国大会「鹿児島大会」

日 時:令和6年10月25日(金)
会 場:メイン会場:宝山ホール(鹿児島市山下町 5-3)
サブ会場:鹿児島市中央公民館
(鹿児島市山下町 5-9)
セッション会場:カクイックス交流センター
(かごしま県民交流センター)
(鹿児島市山下町 14-50)
大交流会:かんまちあ(鹿児島市浜町 2-20)

テーマ:もえよ! 建築維新
～たぎる地で築くみらい～
参加者:4名



(↑女性委員会から参加4名の集合写真 式典会場内にて)

■全体報告

報告者:長瀬 八州余

10月24日(木)に鹿児島に入り前泊しました。

一日目

10月25日(金)は午前10時開始の女性セッションの用意があり、カクイックス交流センターに8時50分に集合でしたので、ホテルを7時過ぎに出て、市電に乗って会場へ向かいました。8時半頃着ました。

午前中は女性セッションに参加して、後片付けをして、

福祉まちづくりセッションに参加していた桂川さんと一緒に、徒歩で8分ぐらいの所にある、宝山ホールへ向かいます。
石黒会長と会いました。



(↑ 石黒会長と一緒に集合写真)

宝山ホールは 53 年前の昭和 46 年(1971)第 14 回全国大会鹿児島大会を開催した所です。
今回は参加者 3,065 名と多くなったので、九州ブロックの方は、宝山ホール隣の鹿児島市中央公民館での参加になりました。



(↑ 左の建物が鹿児島市中央公民館 右の建物が宝山ホールです)

まずは昼食です。お弁当を宝山ホールにて引き替えて、鹿児島市中央公園にて昼食をいただきます。
屋外なので雨降りでなく良かったです。運良く、高野さんと小林さんと会うことができました。



(↑ 予約していた薩摩おごじょ弁当)



(↑ 予約していた薩摩黒膳弁当)



(↑ 昼食の様子)

宝山ホールにて、記念フォーラムに参加です。

記念フォーラムから式典までに、30 分の休憩があったので、宝山ホール2階ロビーで展示されていた、連合会女性委員会のパネルを見に行きました。



(↑ 女性委員会のパネル見学の様子)

15 時より式典の始まりです。オープニングは鹿児島県奄美諸島の「奄美の島唄」で里アンナ氏と前山真吾氏2名の三味線と弾語りで始めました。



(↑ オープニングの様子)

開会宣言は鹿児島の方言で宣言されました。

物故者追悼は昨年の静岡県大会から今日の鹿児島大会までに亡くなった 338 名に黙祷を捧げました。
来賓者は国土交通大臣、林野庁長官、鹿児島県知事、鹿児島市長の4名でしたが、3名は代理で、鹿児島市長のみがご本人の参加でした。



(↑ 開会式の様子)

表彰式等があり、大会アピールです。
岐阜県建築士会会長の石黒氏は連合会副会長になったので、今回大会アピールを鹿児島県建築士会会長の西園氏と一緒に読み上げました。



(↑ 岐阜県建築士会石黒会長の大会アピールの様子)

大会旗引継で次の開催の大阪府に引き継がれました。

大阪府建築士会会長の挨拶で、大阪府ははじめて全国大会を開催しますと話されましたが、皆さん「ハテナ？」という顔をしていました。

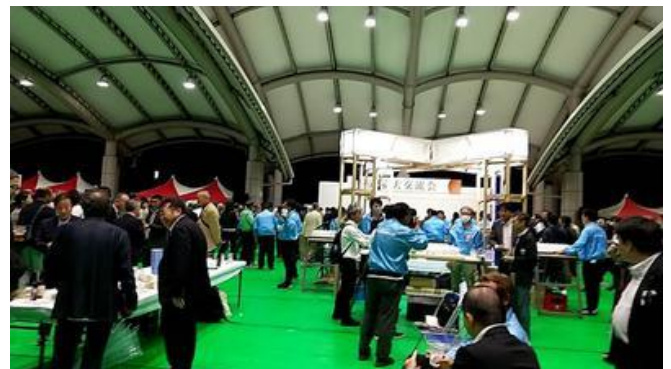
前回の昭和 45 年大阪万博では大会ではなく「万博建築祭(大阪)」としての開催でした。

平成 23 年は東日本大震災で中止となったので、大会となるのは今回が最初です。大阪府の会員の皆さんはきれいな赤の半被を着て、会場では目立っていました。



(↑ 次回大阪大会の PR の様子)

式典が終わって、大交流会会場へ移動しました。



(↑ 大交流会の様子)

二日目

10月26日(土) エキスカーションに参加です。

三日目

10月27日(日) 個人としては今回3泊4日の予定で鹿児島に来ました。

帰りは午後の新幹線だったので、午前中は「カゴシマシティービュー」という、観光地を回っているバス路線があり、それに乗って、仙巖園と旧鹿児島紡績所技師館(異人館)の2カ所の見学をして、鹿児島中央駅より帰路につきました。

九州新幹線(今回はさくら)は、2席が2列なので、のぞみより席が広いです。



(↑ 九州新幹線 さくら内部)

雨に降られることなく4日間過ごす事ができました。
鹿児島県建築士会の皆様ありがとうございました。

■記念フォーラム

演題「建築維新ではじまる未来」

報告者:高野 栄子

大会テーマ「もえよ! 建築維新〜たぎる地で築く未来〜」に呼応したフォーラム形式の講演会でした。
鹿児島県は明治維新の地でその「維新」をキーワードに3名のパネリストによりショートレクチャーがあり、コーディネーターの方が話を進められました。
作家・国文学者の林望氏、エンジニアの後藤一真氏、建築家の大西麻貴氏の3名がそれぞれの維新について

話されました。

後藤さんは構造エンジニアで大阪駅北口広場の屋根の設計をされました。

大西さんは現在桜島の義務教育学校の設計をされているようです。

皆さんの実績と今後の希望を伺いました。

過去を反省し、破壊するのではなく継承していくべき事を現代の「維新」ととらえるべきだそうです。

それぞれの未来を語られました。

ロンドンの建築について、建築は風景の記憶、愛される建築について、熊本震災ミュージアムのこと等多岐にわたるお話がありました。

別々の分野で違った視点での様々な内容で大変勉強になりました。

メイン会場の他にサブ会場も設けられ大変盛況な会でした。



(↑ 記念フォーラムの様子)

■大交流会に参加して

報告者:長瀬 八州余

大会式典終了後、会場を移動して鹿児島駅近くの「かんまちあ」の屋根付きイベント広場にて大交流会が、午後6時より開催されました。

ビールでの乾杯は、午後6時までお預けで、焼酎がウエルカムドリンクで、私が会場に着いた時には皆さん、もうすでにいっぱい飲まれていました。

岐阜県は福井県と同じテーブルでしたが、福井県の方が、このテーブルに寄る事はありませんでした。

岐阜県からの参加は、女性委員会の4名と中濃支部の今井さん親子と石黒会長が参加されていました。



(↑ 岐阜県のテーブルにて)

テーブル毎に、鹿児島県建築士会の方が一人ついてくださり、いろいろとサポートをしてくださいました。

テーブルにはおつまみが置いてありますが、会場の回りに、キッチンカーや屋台が並んで、鹿児島の味を堪能することができました。



(↑ 屋台やキッチンカー)

また会場の四隅は焼酎のコーナーがあり、地域別に分かれており、いろいろな銘柄の焼酎を楽しむことができました。

センターには3Mの焼酎の飲み比べができるように、パックが用意されていました。

焼酎3Mとは2000年代前半に起きた本格焼酎ブームの中で、とりわけ人気の高かった芋焼酎である「魔王」

「村尾」「森伊蔵」の事を指し、3銘柄の頭文字が「M」と言うことで、3Mという呼び名がついた。



(↑ 3Mのパックの様子)

ステージ上では、司会者がのべつ幕無しにしゃべっていて、会場内がうるさく、隣の人との話も聞き取りに難かったです。

キッチンカーや屋台の場合早々と品物が無くなり、食べることなく終わる事が多いのですが、今回は、比較的最後まで品物はあり、終わりがけに取りに行っても、いただく事ができました。

終了は21時だったのですが、中締めは20時半におこなわれました。



(↑ 市電の様子)

係の皆様ありがとうございました。

■セッション報告



(↑セッション会場 カクイクス交流センター3階の廊下の様子。女性委員会、環境部会、福祉まちづくり部会、景観まちづくり部会の4セッションの会場になっていました。)

歴史まちづくりセッション

第 11 回全国ヘリテージマネジャー大会に参加して
会場カクイクス交流センター 1階

報告者:高野 栄子

テーマ「歴史と風土に根ざしたまちづくり～鹿児島の「麓」に見る取り組みと展開～」

鹿児島県には島津家が領内防衛の為に作り、地頭を廃した外城制度がありました。その外城区域内の砦の山裾に「麓」という集落が形成されていました。現在鹿児島県内に 100 箇所、宮崎県下にも 20 箇所の麓が存在しています。その中で現在 4 箇所の「麓」が重要伝統的建造物保存地区に選定されています。「知覧麓」「出水麓」「入来麓」「加世田麓」の 4 つの「麓」について各地区で取り組まれている方々が歴史的建造物の保存活用、歴史的景観の保存の為に取り組みについて語られました。

各地区の発表を聞く中で、数年前の大河ドラマ「西郷どん」で見た風景が思い出されました。道路の拡幅工事、河川の修繕工事、老朽化した民家の取り壊しなどいろいろな問題が起きた際にそれを機会に町並みや建物の保存や活用に乗り出し、今に至る活動が続いていました。

その中でも「出水麓」では伝統的建造物の空き家が増

え、それを活用して店舗、ホテル開発などを実施されていました。分散型武家屋敷ホテルという事業でした。国や県の補助金を活用し金融機関からの借入を元手に令和 4 年より営業していました。また伝建地区内に住宅を新築する際のガイドブックを作成する取り組みもされていて、町並みを将来に繋いでいく活動に感心しました。

他の 3 つの「麓」についても守り繋いでいく為、ヘリテージマネジャーの方々がいろいろなイベントを行い行政と地域住民との架け橋になって活動していました。今回のセッションにて一番印象に残ったことは皆さんの熱意でした。



女性委員会セッション

思いっきりバージョン UP！ Part2

～女性も青年も参加したい「魅力ある建築士会」とは

会場：カクイクス交流センター 3階

参加者：会場 86名 オンライン 8名 合計94名

報告者：小林 教子

女性委員会セッションは、誰もが参加しやすい、入ってよかったと思える「魅力ある建築士会に」するにはどうすればよいかの活動報告を、前回静岡大会と同様に事例紹介がされた。

建築士を対象とした活動として山梨県建築士会「セミナー&食事会」大阪建築士会「活動報告会」広島建築士会「プロジェクトD～挑戦者たちから」九州ブロック「会員増強企画」、

学生を対象とした活動～未来の建築士育成～事例報告として、岐阜県建築士会「たくみ女子会」静岡県建築士会「高校生交流会」北海道建築士会「NPOとコラボ企画」、子どもたちを対象とした活動～福島建築士会「次世代育成プロジェクト」栃木県建築士会「みやJOYけんちく博」、一般市民を対象とした活動～建築士活動への理解浸透～和歌山建築士会「サンタと巡る和歌山県庁本館」

岐阜県からは「たくみ女子会」について、長瀬さんが、今年度開催予定のチラシを配布するとともに紹介し、さらに静岡県青年委員会がおこなっている「高校生交流会」についても東海北陸ブロック会女性建築士協議会の前運営委員長として紹介をされた。

集客が特によかったのは、福島建築士会のお菓子の家を子どもたちに作ってもらう活動で、平成29年の山形建築士会の「お菓子の家づくり」をそのまま真似をしたということであるが、何年もの継続を経て行政まで巻き込んだ市のイベントにまでしたそうである。末は理工系女子をふやすという野望？もあるようであった。

九州ブロックは活動の補助費を出し、ブロックで各県の会員の増強を後押ししているという事例であった。

ただ、どの事例も効果はいま一つのように、会員の増加につながられたのはわずかであった。

進行担当者が最後にまとめていたが、「楽しい」「おいしい」「お金」がキーワードになりそうで、ポイントは周知の方法としていた。



(↑ 大阪建築士会紹介の様子)



(↑ 岐阜県建築士会紹介の様子)



(↑ 会場の様子)

福祉まちづくりセッション

テーマ:

小規模店舗(施設)のバリアフリー化 課題と展望
～誰もがふつうに暮らせる地域社会への貢献について～

場所 :カウイクス交流センター 3F 中研修室2

報告者:桂川 麻里



(↑ セッションの様子)

今年の福祉まちづくりセッションは「日本福祉のまちづくり学会未来型UD戦略特別研修委員会」とのコラボ企画としてセッションを行いました。

流れとして講師の方のお話を聞き、全国の建築士の方の活動報告を聞き、最後にディスカッションを行いました。

最初は東洋大学名誉教授の高橋儀平氏の「小規模施設のバリアフリー化について～我が国の現状や問題点など～」を聞きました。

法律の変遷からお話し頂き、思ったより以前からバリアフリーについての内容が盛り込まれていましたが、絶対的人数の少ない障がい者の方達のことは最低限のことしか行われて来なかったのだと思いました。

小規模店舗のバリアフリーの改修についての事例もたくさんあり、今後の仕事での気を付ける点、気にしなければならぬ点を学ぶ事が出来ました。

高橋儀平氏のお話はオンラインで聞いたことがありますが、いつも何かしら気づかされることがあります。

また、著書も多数ありますが、読みやすいので皆様にもお手に取って頂きたいと思います。



(↑ 高橋儀平氏)

次は、NPO 法人「e ワーカーズ鹿児島」の理事長である紙屋久美子氏の「かごしまバリアフリースターセンターの活動について～小規模施設のバリアフリーの有効性～」をお聞きました。

e ワーカーズ鹿児島の業務内容は鹿児島県内全域の宿泊施設や観光施設、交通機関等の現状調査及びその情報発信だそうです。福祉住環境コーディネーター2級を取得し、宿泊施設や観光施設のバリアフリー化に向けたアドバイスも行っているそうです。

小規模の宿泊施設や観光施設だとどうしてもバリアフリーに対する予算が足りなかったりしますが、「今出来る事への提案」をするということでした。

そのためには色々な良い事例を見て参考にすることも大事だと思いました。ハードでダメならソフトでカバーする方法も設計者として説明出来るようにしたいと思いました。

また、余談ですが今回の話を聞いた後に鹿児島市内の市電に乗ったら、車いす可能な乗降場かどうか分かるようになっていました。市電なので広く乗降場を取れない場所があり、車道との関係で広くするのは難しいですが、情報が分かりやすいと利用できる出来ないを自分で判断出来るのだと実感しました。

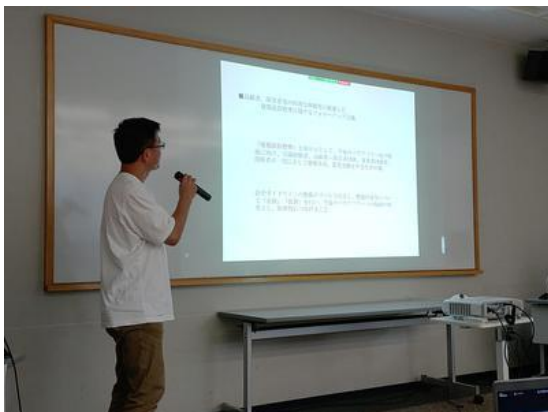


(↑ [紙屋久美子氏](#))

次は全国の建築士会の活動報告です。会場で配布される「セッション資料集」には北海道・埼玉・群馬・東京・神奈川・新潟・岐阜・大阪・宮崎・沖縄の活動報告が掲載されていますが、それとは別に小規模店舗に関することを4名の方に発表して頂きました。

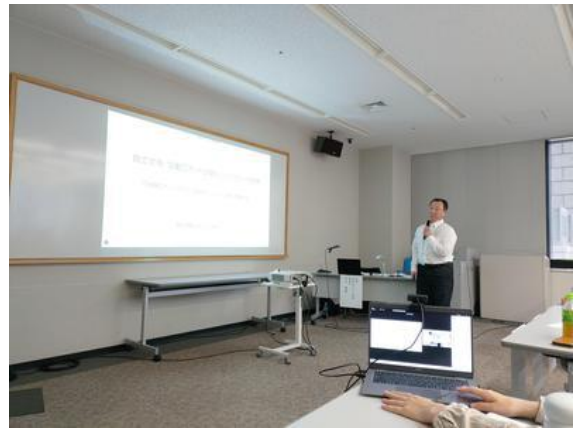
この4名は全国体で知り合って、色々な情報交換をしてお世話になっている方々です。下記にもありますが、バリアフリーを堅苦しくではなく、みんなで楽しめるためにはどうしたら良いかと捉えてバリアフリーと向き合っている方々だと思います。

1人目は埼玉の本多健氏で「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計基準に関するフォローアップ会議」についてお話し頂きました。法等の整備だけで終わらず、その内容について点検、改善をしていくことの重要性がよく分かりました。また、バリアフリーの概念を誰もが「移動できる」ではなく誰もが「楽しめる」こととして捉えるのは大事なことだと思いました。



(↑ 本多健氏)

2人目は東京の川口孝男氏です。連合会建築士会の福まち部会の部会長をしています。今回は土会の活動ではなく、「自立支援・協働ロボットが開くバリアフリーの世界『分身ロボットカフェ DAWN ver.β』視察体験報告」をして頂きました。分身ということで、ロボットを動かす「パイロット」は自宅からでも操作可能です。一番良いなと思ったのは、配膳は出来るがうまく話せなくて接客業が出来ない方が、上手に話せるが配膳が出来ない方が小型分身ロボットの中で接客するという、補いあって配膳が出来るといことでした。東京へ行くことがあれば予約して行ってみたいと思いました。

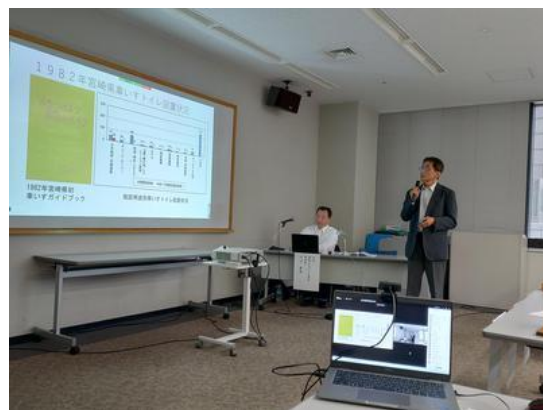


(↑ 川口孝男氏)

3人目は宮崎の岩浦厚信氏で「宮崎市の小規模施設のバリアフリー化の成果について」お話し頂きました。「昔は公共施設と病院にしかバリアフリースイレがなかった」という言葉を聞いて今でも高齢者や障がい者は外出するのが難しいですが、更に難しかったのだと思いました。

ただ、現在はガイドライン等でユニバーサルトイレが増えています、ハード面でただ付いているだけ、ソフト面ではそこまでの通路にもものを展示してありそこまでどり着けない等当事者が使えない状態が多々あるように思います。

自分もそうでしたが当事者との関わりがないと思いが至りませんでした。万人にぴったりの事は出来ないと思いますが、色々な人に思いをはせて設計して行きたいと思いました。



(↑ 岩浦厚信氏)

4人目は京都の村松徹也氏に「福祉のまちづくりの更なる発展を」についてお話し頂きました。

元行政としてのお話と、現在も行政との連携を続けている方です。

こういった方がみえる行政はバリアフリーがうまく進んでいくのだと思いました。

こういった良い前例を持って岐阜でも行政とのかかわりを持って行けたら良いなと思いました。



(↑ 村松徹也氏)

続いて高橋氏、紙屋氏も交えて全員でディスカッションを行いました。色々な話で盛り上がりましたが、私が一番心に残ったことは小規模店舗だとトイレは男女共同で1つしかなく、バリアフリートイレまでのスペースがないというところはたくさんありますが、そういった時でも近くの公共のトイレを把握しておいてそこを紹介出来るようにすれば、小規模店舗でもみんなで楽しめるということでした。ほんのちよつとのことなのに「気付く、気付けない」、「知っている、知らない」の差は大きいのだと思いました。

仕事の合間に行く全国大会は大変ですが、井の中の蛙とならないように参加出来る限り全国大会には参加出来たらと思います。

■エクスカーション報告

10月26日(土)	地域交流見学会(エクスカーション)
プログラム(15コース)	
コース	時間
Aコース さつまの小京都「知覧」と蒸溜所めぐり	8:15~17:00
Bコース 「霧島」黒酢の壺と桜島絶景めぐり	8:15~17:30
Cコース 「指宿」砂むし温泉と薩摩伝承館めぐり	8:00~17:00
Dコース 「もえる桜島」ぐるーり1周、新たな発見!めぐり	8:00~17:20
Eコース 武家屋敷の街「出水」建築物と町並みめぐり	8:00~17:30
Fコース 日本遺産道まち歩きと維新の足跡めぐり	8:25~17:15
Gコース 種子島宇宙センターと古民家めぐり	7:00~18:45
Hコース 桜島から大隅半島縦断 温故知新の旅(1泊2日)	8:00~翌14:
Iコース パワースポットをめぐり霧島温泉で癒やされる旅(1泊2日)	8:20~翌14:
Jコース 世界自然遺産「屋久島」を堪能する旅(1泊2日)	7:15~翌16:
Kコース 「奄美大島」伝統・文化・世界自然遺産をめぐる旅(1泊2日)	8:00~翌9:30
Lコース 鯉の旨味と世界にひとつオリジナル焼酎づくりコース	8:15~17:00
Mコース 「藍島」大自然のアートと絶景コース	7:10~18:50
Nコース 東シナ海乗り鉄ぐるめコース	8:30~14:15
Oコース 大正〜令和 かごしまの「顔」今昔まち歩きコース	8:20~11:30 9:00~11:30

エクスカーション Aコース

「さつまの小京都「知覧」と蒸溜所めぐり」

報告者:長瀬 八州余

集合場所の鹿児島中央駅西口第二駐車場に午前8時集合ということで、駐車場へ向かいます。



(↑ 鹿児島中央駅西口第二駐車場の様子)

今回私の参加するAコースの参加者は41名で、南薩支部長の射手園さんと副支部長の厚村さんの2名がバスに添乗して、他数名が随行車にてついてくるとい事でした。

道中に竹林を多く見るがありましたが、竹の面積は鹿児島県が日本一なのだそうです。

重伝建の知覧武家屋敷に向かいます。

●知覧武家屋敷群

【重伝建】南九州市知覧伝統的建造物群保存地区

昭和56年11月30日指定

【国指定名勝】知覧麓庭園 昭和56年2月23日指定

【日本遺産】鹿児島県では、鹿児島県、鹿児島市、出水市、垂水市、薩摩川内市、いちき串木野市、南さつま市、志布志市、南九州市、始良市の1県9市を構成自治体とする「薩摩の武士が生きた町〜武家屋敷群「麓」を歩く〜」が令和元年5月に認定

現在残る武家屋敷群は佐多氏十六代島津久達(1651~1719)の時代もしくは、佐多氏十八代島津久峯(1732~1772)の時代に造られた物ではないかとされていま

す。

地区内は石垣で屋敷が区切られており、昭和 56 年に国の重要伝統的建造物保存地区に選定されました。また同時に地区内の7つの庭園が「優れた意匠で構成されており、またその手法は琉球庭園と相通じるものがあり、庭園文化の伝播を知る上でも貴重な存在である。」として国の名勝に指定されました。

2つのグループに分けて、1グループは支部長の射手園さんが、2グループはここにお住まいの森さんが説明をして回る事になりました。



(↑ 屋敷は無く 無料休憩所になっている)

門扉と石垣の組み合わせでその家の格がわかり、石垣は丸石積より、四角石積の方が格が上であり、門扉も一段の屋根より、二段になっている方が上だそうです。



(↑ 武家屋敷入り口)

ここの管理は知覧武家屋敷庭園有限責任事業組合がおこなっており、入園料にて、通りに面した所は維持管理をおこなっているが、敷地内の奥の事は個人での管理との事です。



(↑ 説明者の森氏)

西尾恵一郎邸庭園では、門扉が台風等で壊れて、どのように直すのかの方針がなかなか立たないので、2年間このようにつかえ棒で仮補強をしてやり過ごしていますとの事でした。



維持管理が大変になってきていて、家を壊して、公園になった所も多くなっているという説明を受けました。



(↑ つかえ棒の様子)

7つの庭園の内、森重堅庭園は説明者の森さんのお宅で、庭の手入れなどはご自分でおこなっているとの事です。

家の軒先の横樋は竹を使用しているが、長い一本物が入手困難になってきているので、今度の入れ替えは難しいかもとの説明でした。



(↑ 樋が竹の様子)

武家屋敷群を後にして、知覧特効平和会館へ向かいます。

道中 お茶畑が広がります。知覧茶の生産地です。



(↑ お茶畑の様子 バスの中より)

●知覧特攻平和会館

昭和 16 年(1921)、大刀洗陸軍飛行学校知覧分教場として飛行場が開港しましたが、大戦末期の戦績悪化に伴い、特攻戦法としてされたため「陸軍知覧特攻基地」と化した。

知覧基地からの出撃は、3月 29 日に始まり、6月 11 日で終わっている。(出撃日数 35 日)

午前 11 時より視聴覚室にて、地元知覧町出身の「語り部」による特攻の歴史的背景と特攻隊員の遺書・手紙

等の特色について 30 分間の解説を聞きました。

見学の時間が余りなく、展示物をじっくりと、見る事ができませんでした。17歳から上は 30 代の方が書いている遺書や手紙の字のきれいなことが印象に残りました。



(↑ エクスカーション A コース参加者集合写真)

●枕崎お魚センター展望レストランぶえん

昼食をいただきました。

ガイドさんが、同じ鹿児島に住んでいても、枕崎まではなかなか行かないと話していました。



(↑ 昼食セット)



(↑ 昼食の様子)

●薩摩酒造 花渡川蒸留所(明治蔵)

1936 年創業の薩摩酒造は、1955 年に誕生した「さつま白波」のメーカーです。

1970 年代後半、6割の焼酎に対して4割のお湯で割って飲む「ロクヨン」という飲み方を提案。

これが 1980 年代から始まった焼酎ブームを支える大きなきっかけとなった。

明治時代から続く「明治蔵」内部を見学後、試飲をさせていただきました。

外では明日 10 月 27 日(日)が新酒まつりが開催で、その準備をされていました。



(↑ 明治蔵の係員からの説明の様子)



(↑ 蔵の外観)

●本坊酒造 マルス津貫蒸留所

津貫は本坊酒造株式会社の発祥の地です。ここに、日本最南端のウイスキー蒸留所であるマルス津貫蒸留所があります。

最初に、高さ 26 メートルのシンボルタワーとなる旧蒸留塔内では、本坊酒造の歴史をパネル展示とスーパーアロスパス式精製酒精蒸留装置などの遺構を見ます。ウイスキー蒸留棟では、マルスウイスキーの歴史のパネ

ル展示と蒸溜釜をはじめとしたウイスキー製造設備を見学し、石蔵樽貯蔵庫では、ウイスキーの熟成の様子を見ました。

蒸溜所に隣接する Cafe Bar & Shop 本坊家旧邸「寶常」は、本坊酒造二代目社長・本坊常吉が暮らした邸宅です。伝統的な木造建築の和風平屋建てで 1933 年(昭和8年)の建築。ここで試飲をしました。



(↑ 外観)



(↑ 試飲の様子)

全ての見学を終えて、帰路につきます。

途中車中より、重伝建の「南さつま市加世田麓伝統的建造物群保存地区」を見る予定でしたが、保存地区から一本道を隔てた所を通過するので、ほとんど見ることはできませんでした。

予定時間通りに鹿児島中央駅西口に着き解散となりました。

盛りだくさんの見学で有意義は時間を過ごすことができました。

鹿児島県建築士会の皆様ありがとうございました。

エキスカーション Bコース

「霧島」黒酢の壺畑と桜島絶景めぐり

報告者: 桂川 麻里



(↑「名勝 仙巖園」から望んだ桜島)



(↑ 仙巖園御殿 中庭)

Bコースにしたのは「旧田中家別邸」と「鹿児島神宮」が見学したいということと、せっかく鹿児島に行くのなら黒酢の「壺畑」をこの目でみたいと思ったからです。まず最初は「名勝 仙巖園」へ行きました。「明治日本の産業革命遺産」として世界文化遺産に登録されています。御殿は万治元年(1658)に薩摩藩島津家別邸として建てられました。この御殿からは庭も眺められますが、借景としての桜島も圧巻でした。庭園は風水を取り入れたりして作られているそうです。説明を受けながら回りましたが途中!?と思ったところもありましたが、建物の中から見た時に美しく見えるように作られていました。建物が

なくなっていたらこの絶妙な配置は見られなかったのだと思いました。建物も面白かったですが、「釘隠し」の種類がたくさんあり、意味などが分かれば面白いかなと思いました。



(↑ スターバックス(旧芹ヶ野島津家金山鉱業事務所))



(↑ 磯工芸館(旧島津家吉野殖林所))

また別途、自分で行こうと思っていた登録有形文化財を利活用した「旧芹ヶ野島津家金山鉱業事務所」のスターバックスに自由行動の時に行ってみました。外観はそのままに内観は全くのスターバックスとなっていました。こういった形でも残って利活用出来るのは大変良い事だと思いました。その隣にある磯工芸館「旧島津家吉野殖林所」も同じく登録有形文化財で島津薩摩切子ギャラリーショップとして利活用されていました。

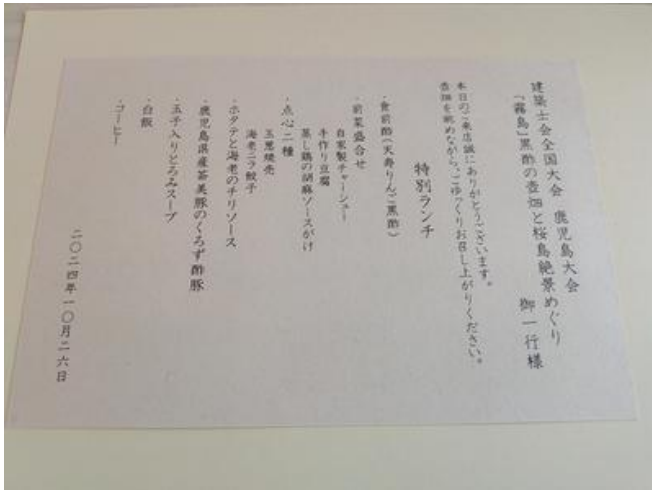
続いて昼食&見学として坂本のくろず「壺畑」へ行きました。

どの料理も黒酢が使われていたりテーブルに酢がおいであるので掛けて食べたりと酢が好きな私にとっては贅沢な時間でした。

昼食後は酢のお土産を買いました。自家用車で行ったならもっとたくさん買って帰りたかったです。



(↑ レストランから眺められる「壺畑」)



(↑ 特別ランチメニュー)



(↑ 黒酢ソフトクリーム)



(↑ 鹿児島県産茶美豚のくろず酢豚)

ショップの横には黒酢の歴史や製法の映像が見られるコーナーやパネルが展示してありました。

映像でしか見たことがなかった壺畑は畑というだけあって段々畑のように置いてありました。

次に向かったのは「旧田中家別邸」です。県の有形文化財で「旧田中家別邸附棟札一枚」です。

門を入ってすぐに思ったのはこれだけ手入れされている庭なのに所々にあるこの雑草は何だと思いましたが、貴重な草なので踏まないで下さいと言われました。

翁草(オキナグサ)といい激減しているそうで旧田中別邸では大事に育てていて現在では約4,000株まで繁殖しているそうです。

建物は外観が和風、内観が一部洋風で住宅建築の過渡期の様子が分かる貴重なものであり、棟札から大阪から大工の棟梁を連れてきたこと、石工は鹿児島の人等建築当初が分かる貴重な資料となっていることから附棟札となっているそうです。

内観の洋風部分は私が見たことのある洋風部分とは異

なり、真壁の壁になっていました。

違和感はありましたが天井のしっくい塗りや窓のデザイン、マントルピースに目が行き上手に洋風を取り入れたなという感じでした。

こちらの庭に面した建物の中からも桜島がちゃんと見えました。

和風部分の建具や床もデザインが凝っていて見ていて楽しかったです。



(↑「旧田中家別邸」と「翁草」)



(↑「旧田中家別邸」洋風の部屋)

続いて訪れたのは「鹿児島神宮」です。こちらは本殿及び拝殿、勅使殿、摂社四所神社本殿が重要文化財に指定されています。本殿は九州最大級だそうです。こちらでまずお祓いをして頂き、建物の歴史や建物の説明もして頂きました。本殿の向拝柱は「龍柱」は初めて見るものでしたが南九州の神社特有のものだそうです。こちらは拝殿でお祓いを受けなければ見られないということではなく、拝殿と勅使殿の間からいつでも見ることが出来ます。また宝暦6年(1756)の江戸時代中期ですが薩摩藩と東アジアとの繋がりがよく分かる天井絵が描かれています。



(↑「鹿児島神宮」左から勅使殿、拝殿、本殿)



(↑ 鹿児島神宮からのお土産と朱印)

帰りのバスで鹿児島県建築士会 霧島始良支部様が選んだお土産を頂きました。

まぐろのかまの灰干しはお酒のおつまみとしてなくなてしまいましたが、緑の釉薬がうっすら入っている黒薩摩龍門司焼のお猪口で焼酎を楽しんでいます。



(↑ お土産の灰干しと黒薩摩龍門司焼のお猪口)

霧島始良支部の方々ありがとうございました。

エキスカッション Oコース

「大正～令和 かごしまの「顔」」

今昔まち歩きコース」

報告者: 小林 教子

大会式典のあった会場周り、おおよそ2時間のコースを、鹿児島県建築士会の案内で歩いた。鹿児島県建築士会では、このコースのまち歩きをタウンウォッチングとして一般の方対象に行っており、鹿児島市内にある登録文化財などへの理解を深めている。

集合場所のカクイクス交流センターをスタートし、鶴丸城(鹿児島城)の御楼門の復元を見学した。ここは鹿児島県建築士会が調査を行い、設計事務所登録をしたうえで復元設計、工事監理を行ったという。堅固な石垣の上に復縁されたが、基礎はもともと石垣の上にあったのであるから、そのままだそうである。そこらへんは何ともおおらかであった。楼門の大梁は岐阜県産のケヤキの大木が使用されたという。



(↑ 鶴丸城の御楼門)



(↑ 楼門の大梁)

本丸跡の歴史資料センター、県立図書館を経て登録有形文化財の鹿児島市役所本館を外部から見学、お堀の水は市役所別館との間の暗渠に流れているらしいとのこと。開渠にするには費用が掛かりすぎるので断念したという。

みなと大通り館前で休憩後、ちょうど「おはら祭」準備中の市役所前的大通りを横切り、名山掘の戦後すぐに建てられた木造長屋風町家群、それぞれは建替えはできそうにない細い路地に面した地区、言い換えればノスタルジックな路地を通り、鹿児島県産業会館に着く。ここは残念ながら廃止予定とのことであるが、特徴ある柱の形状など特徴的で意欲的な建物であった。

続いてサブ会場の鹿児島市中央公民館で、ここは平成15年に耐震改修を行い、レストランもある登録有形文化財。



(↑ 式典の時にサブ会場となった 鹿児島市中央公民館)

中央公園の周囲を教育会館、登録有形文化財の鹿児島県立博物館をながめながら、ゴールのセンテラス天文館再開発地区へ移動到着、解散となった。

少し古い建物も登録有形文化財への登録などの活動がとても熱心であるが、市などの職員が士会員であることが大いに関係しているのかもしれないと感じ、岐阜県との違いにとっても残念な思いになった。



第8回 たくみ女子会

日時:令和6年12月21日(土) 14:00~16:30

場所:ハートフルスクエアG 大研修室

(岐阜市橋本町1丁目10番地23)

参加者:女子学生等 17名(申込21名)

女性アドバイザー14名(内女性委員会6名)

岐阜県畳組合 8名

たくみアカデミー関係者 3名

岐阜県建築士会関係者 1名

岐阜県 ぎふ担い手育成支援センター1名

学校の引率先生 3名

TV 関係者 数名



(↑ 参加者の集合写真)

「たくみ女子会」報告

報告者:田中 佐企

昨年に引き続き、岐阜県立国際たくみアカデミーとの共催で建設業界における女子のネットワーク構築を目指し「たくみ女子会」が開催されました。

今回はアドバイザーとして県内工務店様と建築士会より合わせて14名、学生等より17名が参加されました。インフルエンザ等が流行っている中、飛騨方面からの参加者もあり、非常にありがたいことです。

初めに、来賓の挨拶として岐阜県建築士会会長様、国際たくみアカデミー校長様よりお言葉をいただきました。



(↑ 岐阜県建築士会 石黒会長 挨拶)



(↑ 国際たくみアカデミー校長 挨拶)

続いてプレイベントとして、畳のことを学びながら「おしゃれなオリジナルミニ畳を作ろう」を50分間行いました。受付時に自分の好きな畳表と縁を選んでいただいたのですが、この選ぶ時間も参加者の皆様の緊張がほぐれるきっかけになったのではないかと思います。普段はあまり気にしたことのない畳の仕組みや仕様のことなどが細かく学べ、日本古来からの建築素材の良さに触れることができたことで、これからの暮らしの中に少しでも畳の空間が増えていくなれば良いなと思いました。

ミニ畳のワークショップでは、シワやよれが出ないように引っ張りながらタッカーで止めていく作業があったのですが、みなさんとても器用に作成されていました。作成経験のあるアドバイザーさんから、どのように使っているかのお話も聞きながら楽しめたのではないのでしょうか。



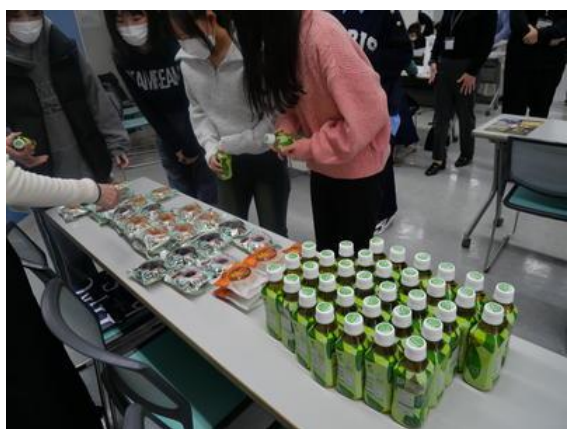
(↑ 畳表と畳縁)



(↑ 座学での映像)



(↑ 作業の様子)



(↑ グループトーク前に休憩があり、お菓子とお茶の配布があります。)

その後のグループトークは各回 30 分間で2回行われました。

学生等のみなさんからは以下のような質問がありました。

- ・実際に働いて見える方のお話が聞けて、どんな仕事内容なのか知れたし、今後の自分がどう進路を決めていったらよいか少しイメージすることができてよかった。
 - ・資格勉強について生の声を知ることができ、自分自身で資格勉強する際に役立てたいと感じた。
 - ・仕事復帰や育休についての実際が分かった。
 - ・どのような資格を取るといいのか、また実際に現場で経験したことを具体的に聞いてイメージしやすくなった。
 - ・高校の先生でも知らないような実際の現場の様子や、仕事の内容を知ることができてよかった。高校の先輩もいて、具体的な話だった。こちらから質問するばかりでなく、たくさん仕事についてお話して頂けたのでわかりやすかった。
- など、ネットの情報では取得出来ない、現場の生の声を

聞くことができ、また、アドバイザーの皆さんもはっきりと隠さず教えてくれたことに意味を感じていただけたようでした。

一方、アドバイザーさんからは以下のような意見をいただきました。

- ・他のアドバイザーの方と話せたのも楽しかった。
- ・これから建築業界に入る人に向けてざっくばらんに聞けるのは良いと思う。若い人が女性アドバイザーに入ってくれるとより身近に感じられて良いと思う。
- ・建築士会の方がリードしてくださったので、無言になる時間も少なく、話しやすいと感じた。
- ・学生の方と話せて原点に返った気持ちでした。同じ志を持った人たちと話せて頑張りたいなと思いましたし、その環境を自分たちが作っていければと思いました。ありがとうございました。

アドバイザーの方、学生等の方どちらの皆様からも、参加して良かった、将来のために有意義な会であるという意見をいただきました。

たくみ女子会は今年度で終了となりますが、次年度からも皆様にとって有意義な活動になるよう、新たな事業に取り組んでいきたいと思えます。

今回のたくみ女子会には岐阜放送とCCNの2社の取材があり、後日テレビ放送がされる予定です。



(↑ グループトークの様子)



(↑ 今回は TV 放映される関係でミナモの参加もありました。)

東海北陸ブロック会

女性建築士協議会

令和6年度ブロック美濃・関大会

* 青年建築士協議会と共催

日 時: 令和7年2月15日(土)～16日(日)

参加者: 青年委員会 91名

女性委員会 34名

(内岐阜県女性委員会13名)

来賓者等 10名

《プログラム》

【1日目】

○開会式 (青年建築士協議会と共催)

会場: せきてらす

(岐阜県関市平和通 4丁目12番地1)

○ブロック事業発表

〈分科会(まちあるき)〉 13:20～16:20(180分)

A 班 小・中規模木造見学コース

morinos (モリノス) → 森林文化アカデミー

B 班 うだつの町並みとまちごと活用見学コース

美濃うだつの町並み(小坂酒造、旧今井家住宅)

→ WASITAMINO、NIPPONIA 美濃、Washi-nary

C 班 美濃和紙と うだつの町並み見学コース

(女性委員会担当)

美濃和紙の里会館(館内見学、紙漉き体験)→美濃

うだつの町並み(旧今井家住宅)

D 班 関市の歴史ある町並みと空き家活用見学コース

せきてらす → 春日神社 → 古民家あいせき、本

町ベース → 善光寺

○活動報告、懇親会 (青年建築士協議会と共催)

会場: みの観光ホテル(美濃市松森 333-1)

○宿泊、座談会

ホテルルートイン関(関市西本郷通 4丁目3-30)

【2日目】

○後期定例(岐阜)会議 (ハイブリッド会議)

会 場: わかくさ・プラザ 総合福祉会館3階会議室(3-1、3-2)

(関市若草通2丁目1番地)

参加者: 対面 34名 (内岐阜県13名)、Web 3名 合計37名

○閉会式



(↑岐阜県建築士会 女性委員 集合写真)

■後期ブロック 美濃・関大会 全体報告

報告者: 長瀬 八州余

令和6年度ブロック美濃・関大会が、2月15日、16日に開催されました。

岐阜県建築士会で青年建築士協議会と女性建築士協議会の共催となるのは、平成22年度(2010年度)岐阜県高山大会以来の共催です。

開会式は会場を「せきてらす」でおこない、分科会はまちあるきとして、4コースあり、そのうちのC分科会を女性委員会が担当しました。

まちあるき後、「みの観光ホテル」にて活動報告と懇親会をおこない、バス移動にて、宿泊の「ホテルルートイン関」へ向かい、女性建築士協議会は21:00から22:00まで座談会をおこないました。

2日目は、女性建築士協議会単独で「わかくさ・プラザ 総合福祉会館 会議室」にて後期定例(岐阜)会議をWEB併用で開催して、閉会式をおこないました。

今回の大会で変わった事は、いつもは定例会議の中でおこなっていた年度の活動報告を懇親会前の時間に、青年の活動報告と一緒に報告することでした。2日目の定例会議の中では、質疑の時間を設けるだけなので、

時間の余裕が少しあったように思います。青年の活動も少し知ることができました。

来賓として、初めて東海北陸ブロックの後期大会に、連合会の会長が出席してくださいました。

多くの企業が協賛してくださいました。会場には「クマリフト」と「パーミルフोटオフィス」の2社がブースを設けていました。

2日間とも、お天気が良く、町歩きには快適でした。一つの会場で全てを済ます事ができず、移動の多い大会になりましたが、参加された方には、美濃・関の町を楽しんでいただけたならうれしいです。大会実行委員の方は、多くの会議を経て、委員の方はいろいろとお疲れさまでした。皆様 ありがとうございました。

【一日目】



(↑ 開会式会場 設営の様子)



(↑ 控え室 設営の様子)



(↑ 昼食の様子)



(↑ 昼食お弁当 保冷剤付きで刺身が入っていました)



(↑ クマリフトの記念品の袋は使い勝手が良く、便利に使っています。)



(↑ 受付の様子。青年と同じ場所で受付をします)



(↑ 酒井女性委員会運営委員長 挨拶の様子)



(趣旨説明 岩田青年委員会大会実行委員長と高野女性委員会大会実行委員長)

【二日間】



(↑ 会議会場設営の様子)



(↑ 会議後の昼食の様子。お弁当は昨日のお弁当と同じ物でした。)

1日目:2月15日(土)

■活動報告会に参加して

報告者:伊藤 麻子

活動報告会は懇親会の前に、みの観光ホテル孔雀の間で行なわれました。

久しぶりの青年委員会との共同開催ということで、通常の女性建築士協議会では、会議の際に活動報告がありますが、お互いの活動をあまり知らないの、お互いの活動報告を聞いてみましょうという新たな試みになりました。

青年の幅広い活動についても聞くことができ、また投票での評価があり、とても新鮮で刺激の多い時間となりました。

岐阜の青年委員会からは長年続けられた文化講演会の紹介があり、他県の様々なワークショップの活動が紹介されました。中でも石川県は青年の絵本製作、女性の復興住宅の計画が興味深く、能登地震の被災後も地域のリーダーとして活躍されている姿は感動的でした。当日の開会式において、石黒会長が「地域貢献ができるのは、青年、女性、まちづくりの3委員会である。」というお話をされていたのが印象的で、やはりこれらの活動を知り、自らに活かしていくことは大切なことだと感じました。



(↑ 青年の各県の活動報告後、各県の女性委員会の報告の前に酒井運営委員長より、ブロックでの簡単な説明がありました。)



(↑ 岐阜県 発表の様子)

■懇親会に参加して

報告者:井之口 洋子

今回のブロック大会は久しぶりの青年との合同開催でした。

女性委員は 30 名の参加でしたがテーブルは A から Q まであり、その内の 13 テーブルほどに分かれて着席しました。

1つのテーブルに 2～3 名の女性委員がいましたので、それほど緊張せずに参加できました。

最初に挨拶と乾杯があり、岐阜県建築士会の副会長である小林教子さんが音頭を取ってくださいました。

今回は多くの来賓の方が参加くださり、特に(公社)建築士会連合会の古谷会長の参加はなかなか稀なことのようでした。

そして、次の日の青年の分科会の講師の方までも参加してくださいました。

全国のブロックからの来賓も出席されて、とても賑やかな懇親会となりました。

懇親会の途中で、各県の地酒が紹介され利き酒エリアがとても賑わいました。

そして、各県のお菓子のお土産もありまして、私は北海道の北菓楼のはまなすの恋を頂きました。とてもおいしいチョコレートのお菓子でした。

また、来年度のブロック研修会の開催県である三重大会の紹介も行われました。

来年度は青年と女性とは別々での開催とのことでしたが女性委員会では分科会が 3 つ紹介があり、選ぶのに迷

いそうなものばかりでした。

懇親会では伊賀牛を頂けるとのことで、とても楽しみになりました。

盛り上がっている中での閉会となりましたが、テーブル内では隣同士話が盛り上がりとても楽しい懇親会となりました。



(岐阜県建築士会 小林副会長 乾杯の挨拶の様子)



(↑ 懇親会の様子)



(↑ 来年度の大会の説明をする三重県女性委員たち)

■座談会 報告

報告者:桂川 麻里

座談会は1日目に会議がある時は話し足りなかったこと、2日目に会議がある時は会議の本題とは別に聞いておきたいことがある時用に、コロナの関係等で出来ない年もありましたが、開催できる時は、懇親会の後に行なわれています。

今年は場所の確保が難しかったですが、1時間でもお話し出来ればという、他県からの要望で、ホテルのレストランを1時間だけ利用しました。すぐ始められるように、開会式の前から飲み物のオーダーを取ったり、おつまみは事前に簡単につまめるものを注文し、スムーズに始められるように工夫しました。

私は懇親会会場の片付けや忘れ物等を確認する係でしたので途中参加となりましたが、皆さん楽しそうにお話ししていました。

いつも、宿泊所の和室を借りての輪になる座談会ではなかったので、全員でお話をするということは難しい状態でしたが、重要なことはお話し出来ていました。また、今回は青年と一緒に懇親会なので女性だけでお話しするのも難しいところでしたので、無理しても座談会を企画して良かったと思いました。

また、ホテルの周りに遅くまで開店している居酒屋さんがいないということで、協賛して頂き、更に今回の大会のお手伝いもして頂いたのに2次会に行けずにいた男性の方も誘えて、皆さんとわきあいあいとして頂けて良かったです。

時間や、場所の確保が難しい座談会ですが次回から各県の方々にも準備して頂きたいです。



(↑ 座談会 酒井運営委員長挨拶の様子)

■分科会報告

日時:令和7年2月15日(土)

○ブロック事業発表

〈分科会(まちあるき)〉 13:20~16:20(180分)

A 分科会 小・中規模木造見学コース

morinos (モリノス) → 森林文化アカデミー

B 分科会 うだつの町並みとまちごと活用見学コース

美濃うだつの町並み(小坂酒造、旧今井家住宅)

→ WASITAMINO、NIPPONIA 美濃、Washi-nary

C 分科会 美濃和紙と うだつの町並み見学コース(女性委員会担当)

美濃和紙の里会館(館内見学、紙漉き体験)→美濃うだつの町並み(旧今井家住宅)

D 分科会 関市の歴史ある町並みと空き家活用見学コース

せきテラス → 春日神社 → 古民家あいせき、本町ベース → 善光寺

A 分科会報告(小・中規模木造見学コース)

報告者:大上 さおり

数日前までの荒天が嘘のようなお天気ブロック会初日、分科会A班小・中規模木造見学コースに参加させていただきました。

スタートは「森林総合教育センターmorinos【モリノス】」。土曜日ということもあり、morinos 広場ではたくさんの家族連れが思い思いに森を楽しんでいました。

morinos の建物は、森林文化アカデミーのワークショップから生まれたそうで、学生さんの2案を建築家・隈研吾さんが講評しながら、それぞれの良いところを取り入れた第3の案をつくり、それが素案になっているとのことでした。

象徴的なV字の丸太柱が印象的ですが、この柱に使われている丸太はすべてアカデミーの演習林から学生たちが切り出したもの。森の命をいただいて建物に引き継ぐという体験ができる。なんて素敵な授業でしょう。ガラスの面が多く、エネルギー消費が気になるところですが、35mm のトリプルガラスで断熱性を高めておりガラス以外の壁の断熱性能も高めることで夏冬通して快適であるとともに、昼間は照明がいらないほど明るいそうです。

室内の床は岐阜県産のスギ材を使用した圧密フローリ

ング。杉という柔らかいイメージですが、およそ半分の厚さまで圧縮することで、フローリングによく使われるナラ材と同等の硬さになっているとのこと。

屋外のデッキも岐阜県産のスギ材を使用。表面だけを加工して美しい木目を残しながら、耐摩耗性を高めています。屋根はかかっていますが、雨がかかるため、井桁に組んで裏側からくぎを打ち、表面に金物が出ないように工夫されています。

その他にも、エントランスを入ると目に飛び込んでくる十二単のような美しい左官壁は、森林文化アカデミー客員教授、左官職人の挾土秀平さんの作品。アカデミーの学生さんが挾土さんの指導の下に塗っている層もあるそうです。

引っ搔いて削れても下から次の層が出てくるという正に十二単になっており、傷ついてもそれが新しい表情になるため補修いらず。悪意を持って傷つけるのはNGだけど、子供にもどんどん触ってほしい、とおっしゃっていました。

ひとしきり morinos を楽しんだ後は、アカデミーの松井先生の地域材を使った木造設計グループと同じくアカデミーの小原先生のマニャック構造グループの2グループに分かれてアカデミー内を案内していただきました。

私は木造設計グループに参加。木材加工の授業やアカデミーの施設を覗かせていただきながら、歴代のアカデミーの学生さんたちが自力建設した建物を案内していただきました。

アカデミーの学生さんはほとんどが建築以外の分野から飛び込んできた人たちとのことですが、入学してすぐに自力建築の設計に取り掛かり、構造などの授業が後から追っかける形でカリキュラムが進むそうです。

自力建築は、毎年学内でアンケートを取って決めた、こんな建物があったらいいな、という小さな建物を設計から施工まで学生さんが行うものです。刻みも学生さんの手加工。今年の自力建築は屋外階段で、部材が多いため、完成の直前まで刻んで刻んで刻みまわりました！と語ってくれたのは木造建築専攻、前職が有名料亭のウエディングプランナーだったという学生さんでした。

木造建専攻では、卒業した先輩方が建てた建物の補修や改修も行っており、木の経年変化や、劣化の条件などを、身をもって体験できるため、木の得手も不得手も実体験で理解した技術者になれるのが強みだと先生はおっしゃっていました。

この分科会に参加して感じたのは、森林文化アカデミーは先生がアツい！ということ。そして、森が、木が、木造建築が大好きだということ。前日までの雪でぬかるんだ演習林をのしのしと歩く！あの熱量でなされる授業

を受けられたらさぞかし楽しいだろうと、学生さんたちを羨ましく思うとともに、この環境から多くの匠たちが生まれ、地域の木造建築を盛り上げて欲しいと心から思いました。



(↑ 森林総合教育センターmorinos【モリノス】)



(↑ デッキの施工方法に興味津々の参加者)



(↑ 美しい左官壁は挾土秀平さんの手によるもの)



(↑ 北川原温氏の設計による「森の工房」樹状トラスが圧巻です)



(↑ アカデミー内に点在する自力建築した建物たち)



(↑ 今年の自力建築の屋外階段と棟梁を務めた学生さん)

B 分科会報告

(うだつの町並みとまちごと活用見学コース)

報告者: 田口 里恵

小坂酒造(国重要文化財)

最初に小坂酒造に案内して頂き屋根に火災から守る為に独特のうだつづくりの屋根がどっしりと今も酒屋の風情を残し営業していました。

この日は蔵開きが行われていて中にお客様がいらしてました。

今回は中に入ることが出来なく大変残念した。





旧今井家住宅(市指定文化財)

江戸時代中期に建てられ美濃市で最も古いだつが上がる庄屋兼和紙問屋の町家

商いを営んでいた帳場や明り取りを見ることができます。



NIPPONA 美濃

築 90 年を超える和紙原料問屋の別邸を改装した宿泊施設3棟の中 1 棟を見学させて頂きました。

数寄屋造りのこだわりのお部屋で見学させて頂いた棟は茶室だったので、

和紙があしらわれてとてもゆっくりできそうな空間です。



C 分科会報告

(美濃和紙とうだつの町並み見学コース)

報告者: 小林 教子

C 班は、美濃和紙開館から美濃市今井家を巡るコースです。

B 班の方々とバスをシェアして出発、美濃市で B コースをめぐる方々を降ろした後、美濃和紙会館へ向かいました。



(↑ B 班の下車後、バスの中で説明を受ける)

到着後、会館前で記念写真(証拠写真)を撮影後入館しました。地下に行き、説明を受けたのち美濃和紙の紙漉き体験をしました。3組に分かれ、さらに半分ずつ体験を進めましたが、皆さんほとんど紙漉き初体験だったので、希望者はキットに合わせてモミジを散らしたりし、大変好評のようでした。待っている方々はその間、売店をのぞいたり、展示を鑑賞しておられましたが、期間展示の和紙のドレスで、「映え」写真を撮られた方もいたようです。



(↑ 紙すきの様子)

漉いた和紙は乾燥に時間がかかるので、井之口さんが受け取り、懇親会時に皆さんに手渡されました。

時間的には1時間弱滞在し、その後美濃市に向かいました。

美濃市では、2班に分かれそれぞれ街角案内人の方々の案内で、まちの反対側からめぐりました。美濃市の歴史から、火災を防ぐ「うだつ」を設けることに至った話を案内人から聞きながら、街の雰囲気を感じ、今井家へ到着。岡田さんが入館の手配を済ませ、スムーズに見学に入りました。

最初に水琴窟の音を聞き(案内人の話によれば、日本一良い音とのこと)、奥の蔵で美濃和紙やうだつの構造やその変遷、「にわか」の話などを聞き、屋敷の内部を見学しました。ちょうど雛人形も飾ってあり、昔の商家の雰囲気を味わうことができたのではないのでしょうか。

今井家を出てから、ポケットパークに飾ってあるあかりアートの作品を横目にバスへと戻りました。1時間ほどの見学でしたので、ぜひもう一度ゆっくりと地域の味も含め、美濃市に来ていただけるとよいと思いました。

帰りもB班とバスを乗り合わせて懇親会場へ戻りました。

C班は手順を確認済みでしたので、時間通り混乱もなく終わられたようです。



(↑ バス駐車場でボランティアガイドさん(宮西さん)から簡単な説明を受ける)



(↑ 町並み見学の様子)



(↑ 今井家 庭の見学)



(↑ 今井家内部とおひな様)



(↑ 集合写真)

D 分科会報告

(関市の歴史ある町並みと空き家 活用見学コース)

報告者: 田中 佐企

今回、関まちあるきコースを選んだ理由は、他3コースはこれまでに体験したことがあったコースだったということと、平素自分がかつての岐阜城下町エリアで空き家を活用したまちづくりを業としているため、同じく歴史ある町並みを持つ関市における空き家活用事例を学びたいと思ったからです。



(↑「せきてらす」床下に残る鍛冶場の遺跡)

●古くから刀都として栄えた様子は、出発地点の「せきてらす」において見られる遺跡からも読み取れ、13世紀中頃から紀末には集落が成立し、鍛冶の町として機能している可能性が高いというのには驚きました。また、江戸時代から変わらない区画割が残る商業町なのは、城下町だったからですか？と質問したところ、関にはお城は存在しなかった、とのことでした。



しかしながらこれほどまでに栄えたのは、かつて物資が

飛騨川から運搬されていた時代、上図(赤い枠線)の激流の難所を避けて内地を通り長良川へ渡り下流へと運ばれていたとのことで、関市はその中継地点であったからだとのことでした。地形から読み取る町の歴史は大変興味深いですね。また、関の町は16世紀中頃には町ごと新しい場所へ移っているというミステリアスな特徴があり、今後新たな発見がされるかもしれないと思うとなんだかワクワクします。

●奈良の春日大明神を勧請して関鍛冶の守護神としたと伝えられている春日神社には、かつて年始には刀匠たちが舞を奉納したという能舞台が残っていました。



(↑鳥居と本殿の中間に位置する能舞台)

この能舞台では刀匠のみならず、農民たちも還暦の際には能を舞っていたとのことで、その披露目の際には刀匠を招待して見ていただいていたそうです。



(「昭和二十年八月建立」と刻まれた灯籠↑)

敷地内に建つ灯籠には、「昭和二十年八月建立」と刻まれており、終戦直後にこのような立派な灯籠が建立できたのは、戦時中に銃刀の製作を担っていたためだと言います。近年ではコロナ禍で世界中が巣籠もり状態の中、包丁が大人気であったという経緯もあり、不景気に強い町なのだとおっしゃっていました。産業のある町は強いですね。

●「本町 BASE」は市の所有する空き地に、飲食、物販、シェアキッチンを備えた創業支援拠点施設です。運営は関市が行っており、シェアキッチンの営業許可や食品衛生管理者の資格などは担当課で担っているそうです。まちのプレイヤーとなる起業家を支援することは、まちの活性化にダイレクトにつながり、町にある空き家を活用した出店にもつながる素晴らしい取り組みだと思いました。オープンした3年間での利用者数は1,556件、訪問者数は84,735人、イベントは実に84回開催されているそうです。この中から何組の起業家が育っていったのか興味がそそられます。



(↑イベント時は敷地内の空地と一体で利用できる)



(↑イベント時は敷地内の空地と一体で利用できる)

2日目:2月16日(日)

1 日目は青年建築士協議会と共催

2日目 青年とは別会場

日 時:令和7年2月16日(日)

【2日目】

○後期定例(岐阜)会議 (ハイブリッド会議)

会場:わかくさ・プラザ 総合福祉会館3階会議室(3-1、3-2)

(関市若草通2丁目1番地)

参加者:対面 34 名 (内岐阜県 13 名)

Web 3 名

合計 37 名

○閉会式



(↑会議終了後 集合写真)



会議のお菓子とお茶

右上のお菓子は美濃市の此の花亭の「うだつが上がりますように」という和菓子

右下のお菓子は関市の孫六煎餅本舗の玉子、小麦粉、砂糖のみを主原料に手焼きした煎餅

■令和6年度後期定例(岐阜)会議

報告

報告者:岡田 利里

令和6年度ブロック美濃・関大会2日目の16日(日)は、後期定例会議を行いました。岐阜県が幹事県として、会議の運営、進行を行いました。

参加者は37名(うちWEBは3名)でした。

最初は、ハンドマイクの接続が上手くいかず、あたふたせいで、少々時間が押してしまいましたが、休憩時間で時間調整を行いました。

報告事項として、石川県の山田さんから、能登半島地震と奥能登豪雨の被害の状況などを報告していただきました。被害を受け一部が解体されることとなった和倉温泉の旅館の見学や、女性委員会有志による石川県の住宅モデルプラン集への参加など、建築士としてできることを色々とされていることに感銘を受けました。

活動報告については、青年と一緒に開催するのなら、お互いの活動報告も聞いてみたいということで、前日に各県の活動報告を行っていました。それはとても良かったのですが、1日目の活動報告に対する質問を2日目の会議で問われたので、質問が出にくかったように思いま

す。
協議事項としては、昨年から長瀬さんが取りまとめてくださった運営マニュアルは、覚書きが入ったことで誰が見ても今までの経緯が分かるようになったこと、表紙に改定年月日が記入されていることでとても分かりやすくなったと感じました。

私は、後期会議は3度目の出席で、少しずつ他県の人たちとも顔なじみになってきましたので、年1回お会いできるのが楽しみの1つでもあります。
岐阜県からは13名の女性委員が出席してくださり、会場の準備や当日の進行にご協力いただきました。仕事や家庭のことでお忙しい中、本当にお疲れさまでした。



(↑ 酒井運営委員長挨拶の様子)



(↑ 会議前の様子)



(↑ オブザーバー参加者席の様子)



(↑ 来賓 小林岐阜県建築士会副会長 挨拶の様子。
岐阜県で初めての女性副会長です。)



(↑ 岡田岐阜県女性委員長 挨拶の様子)



(↑ 石川県 被災地報告の様子)

■令和6年度 ブロック美濃・関 大会を振り返って

報告者: 女性委員会大会実行委員長 高野 栄子

私にとって3回目のブロック大会の運営でした、そして、はじめての青年協議会と共同での開催でした。2年程前から実行委員会を立ち上げ青年委員会のメンバーと打合せを重ねながら進めていきました。

みなさん仕事で忙しいなかの準備でなかなか進みませんでしたが、青年委員会の方々のイベントの進め方や委員会としてのまとまりなどを知る良い機会になりました。

まず感じたことは何事もゆっくりでした。あと連絡が悪かったです。細かい所に気が回ってなくてびっくりしたり、ひやひやしたりと、気をもみました。が逆にこちらは気がつかないところをお願いしたり、会場が遠方のため会議室の予約やホテルの手配、打合せ、懇親会の段取りなど、ほとんどお願いすることができて大変助かりました。ゲストのみなさまも青年委員会と一緒に行動できたのでよかった県もあると思いました。

いろいろ細かい所で気になった事がありましたが、概ね大きな失敗もなく上手くいったかなと思っています。何度やっても、しまったなと思うことがひとつやふたつあります。なにもかも完璧には出来ないとも思います。参加人数が多くなるとそれだけ気が回らないことが増えて、しまったと思うことが増えます。イベントは自分の把握出来る範囲や人数で行う方がいいのかなと私の個人的感想です。

女性委員会の皆さんは特に細かくお願いすることも無く、スムーズに大会運営にご協力頂きました。

皆さんは自分が何をやらなければいけないのかを各自判断して動いて頂きました。

ほんとうにありがとうございました。



(↑ 開会式会場前にて)

第23回気楽にらくだ会

日時: 令和7年3月8日(土) 10:50~12:40

見学場所: coyane こやあね

(岐阜県美濃加茂市太田町 2689-30)

美濃加茂市で初のコワーキングスペース

参加者: 6名(内女性委員: 6名)

講師: ライフオーガナイザーひと宮

代表 服部ひとみ 氏

《講師紹介》

10代の頃から大好きな「片づけ」を、二児の母でありながら仕事にし、起業した元専業主婦。【閃きと変化を目の前から】を経営理念に掲げ、SDGsを意識した「捨てるから始めない片づけ」の提案と、自身の「家事も仕事もそして趣味も諦めない」という生き方が反響を呼び、現在片づけ事業、講師業、オーナー業、プロデュース業と多岐に渡って活躍中。多忙な傍らプライベートも謳歌する生き方は、多くの女性を勇気づけている。

《プログラム》

10:50	受付
11:00~12:00	こやあねの見学会
12:00~12:40	ランチ兼座談会
13:00~14:00	定例委員会(2F 多目的スペース)

《建物の説明》

- 1階 フリースペース
- 2階 多目的スペース
(グリーンルーム、ブルールーム)
サテライトオフィスルーム
- 3階 コワーキングスペース

「気楽にらくだ会」に参加して

報告者: 井之口 洋子

今回の「気楽にらくだ会」は岐阜県で活動中の「ライフオーガナイザーひと宮」代表 服部ひとみさんを講師にお招きして、美濃加茂市駅前にあるコワーキングスペースの立ち上げから運営までの道のりを聞かせていただきました。

会場のコワーキングスペースとは会員制のスペースのことです。セキュリティがしっかりしており、電子錠での出入りの管理がなされていました。

1階のフリースペースで受付を済ませた後は、2グループに分かれて建物内部を説明しながら案内して頂きました。



(↑ 1階で受付後 服部さんと挨拶の様子)

当初は講師の服部さんの案内で見学の予定でしたが、隅々まで見て欲しいと言ってくださり、オーナーの安藤さんも案内役として来ていただきました。

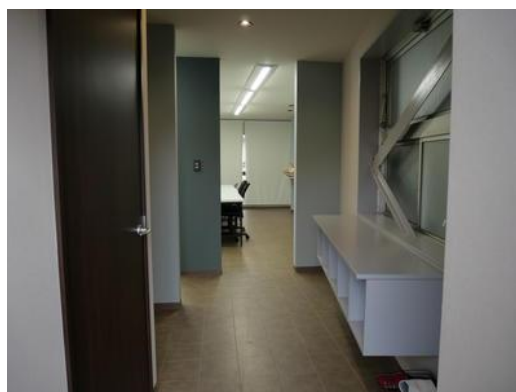
おかげで、普段は見られない2階のサテライトオフィスルームと3階のコワーキングスペースを見せていただくことができました。

建物は築 50 年くらい経っているとのことでしたが、中は綺麗にリフォームされていて、随所に色々な工夫がされていました。

私のグループは先ず2階のサテライトオフィスを見学しました。

こちらは県外の方が岐阜県に拠点が作れるように、サテライトオフィスとして利用できるようになっていました。県外の企業の方が対象とのことで、先月まで富山県の方が契約されて使われていたそうです。

一部屋が2つに区切られるようにと考え、間仕切りがしやすいように小壁の設置があり、最初からエアコンも2台設置されていたそうです。



(↑ 玄関から部屋を見る。左側に水回りがあります。)



(↑ サテライトオフィスルームの様子)

次に3階のコワーキングスペースの見学です。こちらは個別スペースになっており、いかにも仕事に集中できそうなサイズになっていました。

見ていただいたのは空きスペースの部分でしたが、荷物(私物)も置けるという事で監視カメラもしっかり設置しており、セキュリティにはとても気を付けていますとのことでした。

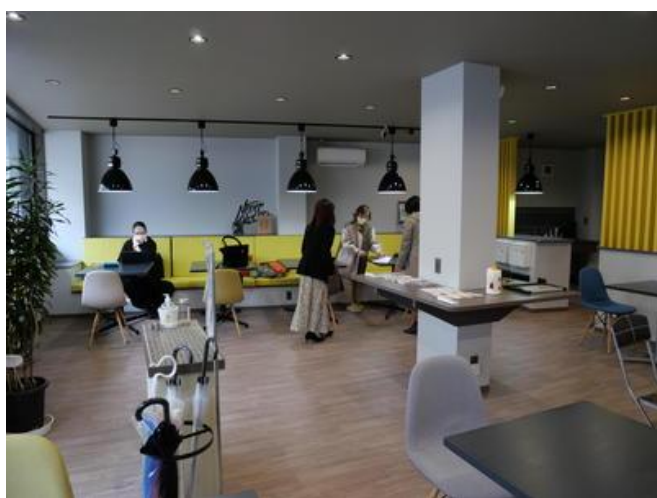


(↑ 空き部屋になっている個室の様子)



(↑ 3階のコワーキングスペースの全体の様子。安藤さんの説明を受ける。奥の個室は契約されているので見ることはできません。)

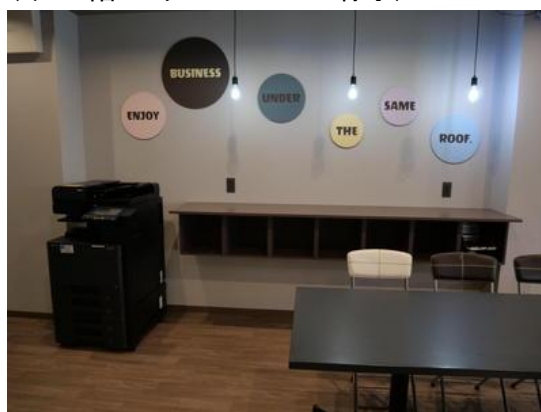
次に1階のフリースペースです。
 広々とした空間で、1会員につき3名まで入れるという事で打合せスペースにもなるとのことでした。
 カフェ等で打合せするよりも見知らぬ人に話を聞かれることもなく商談ができるそうです。
 こちらには A3 サイズまで連続印刷可能なカラーレーザー複合機があり、会員番号を入れれば書類の打ち出しもコピーもできるそうです。精算は月一回会費と共に行えるそうで、仕事がとてもしやすいと感じました。
 また、住所を自宅にしたい人などにはポスト利用もできるようになっているそうです。
 会員が持ち寄った本棚スペースもあったりして、こちらが交流の場になっているという事がよく分かりました。



(↑ 1階 フリースペースの様子)



(↑ 1階 フリースペースの様子)



(↑ 会員が自由に使えるコピー機)



(↑ 水回りの様子)



(↑ 登録すれば、私書箱代わりに使える郵便受け)

最後は2階の多目的スペースでした。

こちらのお部屋に入った時にとても明るいお部屋だなと感じました。

手前はグリーンルームと言い、緑のクロスを基調とした内装で、奥はブルールームと称し、青のクロスが基調になっていました。

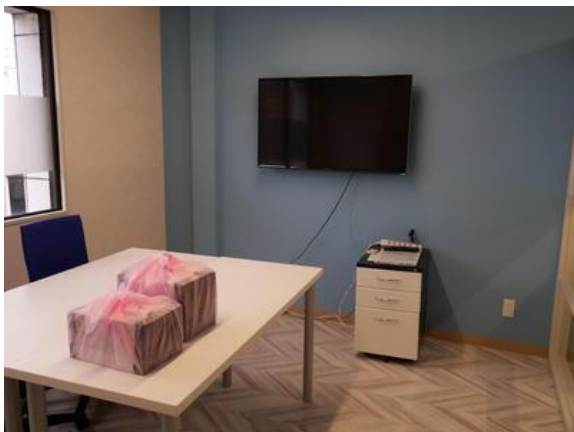
コワーキングスペースと言いながらもどの階のお部屋も白いクロスが貼ってあるような味気ないオフィスっぽい内装ではなくて、心地よい空間になるようにとクロスを選んでありました。

特にこちらはキッズルームとしても使えるようにと計画したそうで、中央にある間仕切りは透明ガラスを使用した仕切になっていて、小さい子供や、お隣のお部屋の様子が伺えるようになっていました。

そして普段、スタッフが常駐していないために、どこのスペースも監視カメラが設置してありました。ですので、ちょっとした着替えをしたり、おむつ替えがしたいなどカメラの前ではちょっとという場合に備えてトイレスペースがどの階も広めに作られていました。



(↑ 2階 多目的スペース グリーンルーム。午後から定例委員会で使用しました。)



(↑ 2階 多目的スペース ブルールーム。注文していたお弁当が置いてありました。)



(↑ 2階 WC 着替えができる広さです。)

また清掃スタッフが入るので、いつも清潔な空間が保たれているそうです。

多目的スペースで立ち上げの経緯を聞かせていただきました。

2016年に悩みが同じ仲間が、やりたいことを一つ屋根の下でやろうと立ち上がったそうです。

当初は女性5人。女性のための起業支援事業から始まり、コミュニティとコワーキングスペースの両立を目指していました。

2016年はパンデミックの2年前。その頃からテレワーク等に目をつけていたとは驚きでした。

事業の目的: 空間のシェアと経営の勉強

ルール: オーナーは5名でオーナーも会員となる

月1回オーナー会の開催とオーナーの卒業制度
この卒業制度は、目的が経営の勉強であることから独立できるようになったら外へ羽ばたいていこう=卒業だそうです。

立ち上げた後に課題も出てきて、コワーキングスペースを使うのに男性からの問い合わせが多くなったこと、会員の継続が難しいこと、使い勝手の悪さ等があったそうです。

最初にテレワーク補助金を使って2、3階をリフォームし、その後に地方創生補の補助金でサテライトオフィスと1階のリフォームを行ったそうです。

リフォームには今回の講師であるライフオーガナイザーの服部さんが空間の使い方などを計画し、内装の指示等も合わせて関わっていき、補助金制度を使うのには行政に詳しい他のメンバーが関わり、建物を使うのに必要なシステムを構築するのにIT関係に強いメンバーが関わるなど、メンバーが得意分野を活かして力を合わせた結果が今に至るとのことでした。

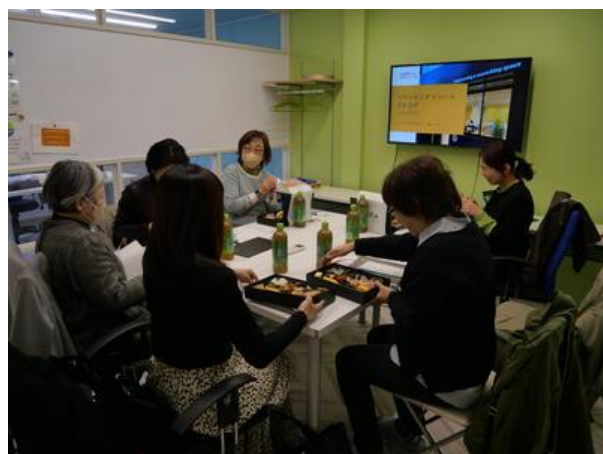
会員同士のコミュニティが活発になるようにと年に2回交流会も行うようにして、会員の継続率も上がったそうです。

知識を持っているだけでなく、それを活かして次へつなげる場があること、そのメンバーがそろっていたことが成功のカギのようでした。

今もオーナーは5人で、女性2名・男性3名となって運営しているそうです。

見学に思ったよりも時間を取ったのでお弁当を食べながら座談会形式で講師の服部さんのお話を聞かせていただきました。

途中で、皆が感想を言ったり、質問をしながら、ゆっくりとお話できました。



(↑ お弁当を食べながらの交流の様子)

この「気楽にらくだ会」の後に女性委員会の例会をこちらの多目的スペースで行ったのですが、丁度よいお部屋の大きさとWi-Fi完備(当たり前ですが)テレビ画面もあってWeb会議がしやすいねとの声が上がりました。



(↑ 定例委員会の様子)

お近くの方でご利用したい方は会員以外でも時間貸し切りの利用ができるそうです。

是非こちらへご連絡してみてください。→URL:

<https://coyane.com/>



編集後記

54号をお届けします。

4月の発行ということで、マークは桜を使用しました。

令和6年度後期(10月～3月)の報告となっています。

皆様からの投稿はいつでもお待ちしております。

また、編集参加、問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員(長瀬)

公益社団法人 岐阜県建築士会

岐阜市藪田南5丁目14番地12号

岐阜県シンクタンク庁舎4階

TEL 058-215-9361 FAX 058-215-9367

<http://www.gifukenchikushikai.or.jp/>

Eメールアドレス kensi578@juno.ocn.ne.jp

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します

